

市長あいさつ



「地域の宝を守り活かし、共に創る持続可能なまち」

大田市長 **楯野弘和**

大田市では、平成30年度に市政運営の指針となる「第2次大田市総合計画」を策定し、「子どもたちの笑顔があふれ、みんなが夢を抱けるまち“おおだ”」を目指すべき将来像に掲げるとともに、「共創」によるまちづくりを基本姿勢とし、本市に関わりを持つすべての皆さんと一緒に汗をかき、ひとつずつ形にしていくプロセスを実践してまいりました。

しかしながら、計画の策定以降、社会情勢は日々変化し続け、本市を取り巻く環境や諸課題は大きく変わってきています。

特に、大田市東部を震源とする島根県西部地震の発生により、地域防災力の向上や建物の耐震化など、災害に強いまちづくりの必要性が一層高まったほか、新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活様式や価値観を大きく変え、地域経済や地域活動に大きな影響を与えました。さらには、加速する人口減少への対策強化、デジタル化の推進、脱炭素社会への対応、様々な分野における人財の確保・育成など、重要課題や新たな課題も生じています。

このような情勢の変化や諸課題に柔軟に対応できる「持続可能なまちづくり」を進めるため、このたび、後期期間4年間の具体的な施策を示す「基本計画」を策定しました。総合計画の基本構想（基本理念・将来像・基本姿勢・基本方針）を継承するとともに、SDGs（持続可能な開発目標）の理念を取り入れ、将来像を実現する取り組みを進めてまいります。

本市には、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」や国立公園「三瓶山」、日本遺産に認定されたストーリーなど、たくさんの地域の宝があります。引き続き、市民の皆さんとの「共創」により、それらを守り活かし、これからの大田市を築いてまいりますので、更なるご理解とご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和5年2月